

2022年8月10日

各位

JX金属株式会社

## 鉱硫船 KORYU 号への風力推進補助装置の搭載について —風力を利用して海上輸送における CO<sub>2</sub> 排出量削減を目指す—

JX金属（社長：村山 誠一、以下「当社」）のグループ会社であるパンパシフィック・カッパー株式会社（社長：堀一浩、以下「PPC」）は、大手鉱山会社である BHP および船の風力推進補助装置の世界的メーカーである Norsepower Oy Ltd.（以下、「ノースパワー社」）との間で、海上輸送における脱炭素プロジェクトに合意いたしました。センコーグループの日本マリン株式会社（センコー株式会社 60%、当社 40%出資）が運航する鉱硫船\*<sup>1</sup>「KORYU 号」に風力推進補助装置「ローターセイル」を搭載する検証を進めており、BHP がチリに保有する鉱山と日本国内の当社グループ製錬所との間で銅精鉱および硫酸を輸送する際に排出される CO<sub>2</sub> の削減を目指します。実現すれば、スープラマックスサイズのばら積み貨物船では世界ではじめてのローターセイル搭載事例となります。

ノースパワー社のローターセイルは従来製の帆の約 10 倍の効率を持ち、一度稼働させると操作を必要としないことが特徴です。風力を利用してマグヌス効果\*<sup>2</sup>を生み出し、船の燃費効率を最大限に高めることができ、風の状態が良好であれば、速度と航海時間を維持しながら主機関の回転数を落とすことで燃料使用量および CO<sub>2</sub> 排出量の削減を可能とします。現在技術面での評価を進めており、2023 年第 3 四半期中の搭載を予定しております。

本件は、当社が本年 8 月 3 日に発表した「[サステナブルカッパー・ビジョン](#)」において、今後当社が取り組むこととした「4 つの施策」のうちの一つ「銅のカーボンフットプリント（CFP）削減」に向けた具体的取り組みの一部となります。当社グループは、2050 年度に CO<sub>2</sub> 自社排出量をネットゼロとする目標を掲げておりますが、今後はこれにとどまらず、原料生産・物流も含めたサプライチェーン全体での CO<sub>2</sub> 排出量削減目指すいわゆる「Scope3」へ対応に向けた取り組みも積極的に進めてまいります。

以上

\*<sup>1</sup> 銅精鉱と硫酸を輸送できる特殊船（53,762 載貨重量トン）。世界で当社グループのみが運航。年間約 15 万 t の銅精鉱と約 10 万 t の硫酸を日本—チリ間で往復輸送し、業界内でも最も高い輸送効率を実現しています。

\*<sup>2</sup> 回転しながら進む物体に風が当たることで揚力が発生する現象

〈KORYU 号へのローターセイルの取り付けイメージ〉

